



「母校のマリア像に、(1985年の)日航ジャンボ機墜落事故の犠牲者の名前が刻まれています」。四日市市平尾町のメリノール女子学院(現四日市メリノール学院)の卒業生という読者が、「Your Scoop〜みんなの取材班」

(ユースク)に情報を寄せた。取材すると、同校の卒業生が乗員として搭乗していたことが分かった。慰霊のために建てられたマリア像は、事故から35年たった今も、生徒たちを静かに見守る。(尾林太郎)

生徒見守る 慰霊のマリア像

四日市メリノール学院



藤田さんの生きた証しを伝え続けるマリア像。四日市市平尾町の四日市メリノール学院で

日航機墜落で犠牲 卒業生藤田さんの名台座に

高さ約一丈の白いマリア像は、同校の中庭にある。台座には一九七五年に同校を卒業した、藤田香さん(当時16歳)の名前が刻まれている。事故があった翌八六年、同校が藤田さんの両親から「お世話になった」と受けた寄付金で、慰霊のマリア像を建てた。

同校によると、藤田さんは卒業後、神田外語学院(東京都千代田区)を経て日本航空に入社。乗員として搭乗した同機の事故に巻き込まれ、帰らぬ人となった。

藤田さんの名は事故後、学校で語り継がれてきた。毎朝授業開始前にある「お祈り」では、事故があった八月に近づくと、シスターや神父が、藤田さんが若くして亡くなったことを紹介してきた。オープンキャンパスでも、教員が参加者に校舎を案内する際、マリア像が置かれた経緯を説明す

るといつ。

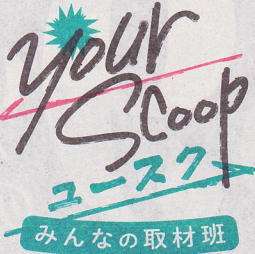
三十五年がたった今、

真面目で活発な生徒

同校元教諭の日野道和さん(70)も桑名市には、藤田さんが高校三年生の時に担任を務めた。当時から航空業界を目指していたといい、英会話などの勉

日航ジャンボ機墜落事故 1985年8月12日
午後6時56分、羽田発大阪行き日航123便ジャンボ機が、群馬県上野村の「御巣鷹の尾根」に墜落。乗客乗員524人のうち520人が死亡した。単独の航空事故としては世界最悪の死者数。87年、当時の運輸省航空事故調査委員会は、米ボーイングの作業員が機体後部の修理ミスをし、日航と運輸省の担当者が見逃したことが原因と結論づけた。群馬県警は業務上過失致死傷の疑いで、日航やボーイングなどの関係者計20人を書類送検。前橋地検は89年、全員不起訴とした。

「事故そのものを知らない子どもが増えた」と高木義成校長(左)は話す。ただ、教員などに像の由来を尋ねる生徒も少なくなく、「像のおかげで事故の記憶が受け継がれている。なければ事故そのものが埋もれていたのかも」と感じているという。「像は藤田さんが生きてきた証し。子どもたちが、悲惨な事故を知るきっかけになってくれれば」と願う。



悲惨な事故忘れないで



当時の担任 日野さん

強に励んできた様子を間近で見えた。「文武両道で何事にも一生懸命。とにかく真面目で活発な生徒だった」と明かす。

藤田さんと同じバレーボール部だった同級生の川添美恵子さん(左)は、卒業後も仲間と下宿先を訪ね合った。事故当時、テレビのニュースで流れた乗員名簿に藤田さんの名前が載っているのを見かけ、慌てて同級生と連絡を取り合ったという。「せっかくながら努力して夢をかなえたのに、ショックで悔しかった」と振り返る。

十年ほど前から毎年夏ごろ、川添さんは当時の同級生たちと藤田さんの墓参りに訪れている。「決して忘れてはいけない事故。マリア像は、次世代に事故を伝える大切な存在」と話す。

藤田さんの様子を振り返る日野さん(桑名市)